

《各委員からの意見》

4. 今年度具体的活動の協議

1) 各協力校の今年度の進路決定の現状報告

【大阪技能専門学校】

今年度に関しては、コロナの影響で学校のスタートが2か月遅れとなった。

それに伴い例年9月の就職試験出願時期が1か月先延ばしとなったが、実際の生徒に対する働きかけや意識づけの期間が短くなり、進路としては難しい状況になった。

さらに各企業がこの状況下で採用を見送るところが出てきて、生徒たちの選択の幅が狭くなってしまい厳しい進路決定となっている。

(松長オブザーバー)

【英風女子高等専修学校】

やはり、就職活動が1か月遅れているということが大きく影響していると思われる。また、家庭状況の急変で経済的な観点から進路を変更せざる負えない生徒も出てきている。それらの生徒をどのようにサポートしていくかが大きな課題となっています。

その他では、この状況下対面ではない面接方法が出てきた。本校でもすでに2名の生徒がオンラインネットワークで面接を行った。これに関しては今後設備の問題、また対面での面接だけではなくネットワークを利用した面接の訓練など、考えていけないといけない課題である。

(西口委員)

【東朋高等専修学校】

本校では、例年進学が半分、就職が半分程度の割合であった。昨年まではこの時期では進学希望者の7割程度、就職希望者は5割弱の生徒は進路決定をしていた。

しかし、今年度は進学希望者のうち決定者が5割に満たない数字、就職希望者に関しては半数以上の生徒がどこを受験するのか、何をしたいのかも決めれない状況である。

このような状況が今回のアンケート実施で浮き彫りになった。(岡崎委員)

- ・オンライン面接について意見があったが、実際にオンライン面接の状況について意見を伺いたい。

(事務局)

- ・実際にコロナ下の状況で企業側からオンラインでの面接を対応してほしいという希望はあります。まずオンライン面接は、後ろに置いてある書籍であったり必要のない様々な情報が映り込む可能性があるため自宅ではできません。学生は学校で行ってもらいます。中には設備機器が整っていないなど問題もあります。そういう場合は対面での面接をお願いしています。高等学校ではまだまだ対応ができていないのが実情です。

(小川委員)

議題等

2) 高等専修学校アンケートの考察

【2年生向け進路アンケート考察】

今回のアンケートですがまず、就職進学割合がほぼ同じくらいになっています。昨年と違う点は、進学・就職でもないその他の割合が増えているということです。その他の特徴は就職する理由で、収入が欲しいという理由がかなりの割合を占めており経済的な問題が影響していると考えられます。

進路選択に関しての生徒たちの希望では、職場の先輩の話を実際に聞いてみたいや、コミュニケーションを高める授業を受けたいなどの希望が多く目立ちました。

やはり、生徒の希望の多くは様々な質問の中でコミュニケーション能力や人間関係に不安を感じている生徒が多いように感じられます。

【3年生向け進路アンケート】

最終進路で進学・就職・その他がちょうど同じくらいの割合になりました。

しかし、その他の中で、アンケート時点でまだ決まっていないという生徒が目立ちました。

就職が決まらない理由で気になったのは「希望する職種の求人が少ない、見つからない」という理由です。本人の希望と求人先の条件が大きく乖離していると思われる。

また、進路を決めた時期に関しても今年度は相当遅い時期であるのが特徴としてあらわれています。3年生の夏以降が60パーセントを占めており、やはりコロナの影響で全体の動きが遅れたことが影響しているように思われます。

進路活動で役立った学習活動としては、三者懇談が最も多い割合です。その他進路説明会などが上がっています。

進路決定の際に受けてみたい授業としては、やはりここでもコミュニケーションを高める授業、挨拶や職場マナーの学習がありました。

後輩へのアドバイスとしては積極的に先生に相談するという意見が目立ちました。中でも最も多かった意見は「とにかく早く進路の意思決定を行う」という意見が6割を超えています。

全体の結果から、進路決定の意思を早めるための積極的な面談の機会の設定、コミュニケーションの不安を解消するワークが必要ではないか。また、実際の職場の声を聴きたいという意見に対しては職業講話などを積極的に取り入れるなどが効果的ではないかと思われます。

(以上 原田委員)

3) 「副教材」記載項目の検証

副教材を実際使用してみた考察を意見交換する。次回会議までに変更可能なものについては対応することを確認する。

- ・教材の文章が少し多いようなので簡潔に箇条書きにする方が良いのではないかと。あと面接時の指導項目を少しボリュームアップして頂きたい。

(松長委員)

- ・もっとワークを増やした方がよかったと感じる。そのワークを利用してロールプレイングで実際にやってみられるような教材になればよいのではないかと思います。

(小川委員)

《會議風景》



議題等

事業名	「専修学校による地域産業中核的人材養成事業」																							
会議名	様々な問題を抱える高等専修学校生が社会人として定着するための地域ネットワークシステム構築事業 第3回職業スキルアップカリキュラム構築分科会																							
開催日時	2020年12月22日(火) 15時55分～16時30分																							
場 所	大阪技能専門学校 第2情報室 (大阪府岸和田市神須屋町413)																							
出席者	<p>①職業スキルアップカリキュラム構築分科会構成員(委員)</p> <table border="0"> <tr> <td>大阪技能専門学校</td> <td>前川委員</td> <td>大阪技能専門学校</td> <td>千代田委員</td> </tr> <tr> <td>英風女子高等専修学校</td> <td>西口委員</td> <td>東朋高等専修学校</td> <td>岡崎委員</td> </tr> <tr> <td>若者サポートステーションやまと</td> <td>原田委員</td> <td>アリバ有限会社</td> <td>細田委員</td> </tr> <tr> <td>ボデーショップ岩本</td> <td>岩本委員</td> <td>(株)日本トラフィックサービス</td> <td>広末委員</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(計8名)</p> <p>②事務局</p> <table border="0"> <tr> <td>大阪技能専門学校</td> <td>三浦</td> <td style="text-align: right;">(計1名)</td> </tr> </table> <p>③オブザーバー</p> <table border="0"> <tr> <td>大阪技能専門学校</td> <td>有末</td> <td>大阪技能専門学校</td> <td>松長</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">(計2名) (参加者合計11名)</p>	大阪技能専門学校	前川委員	大阪技能専門学校	千代田委員	英風女子高等専修学校	西口委員	東朋高等専修学校	岡崎委員	若者サポートステーションやまと	原田委員	アリバ有限会社	細田委員	ボデーショップ岩本	岩本委員	(株)日本トラフィックサービス	広末委員	大阪技能専門学校	三浦	(計1名)	大阪技能専門学校	有末	大阪技能専門学校	松長
大阪技能専門学校	前川委員	大阪技能専門学校	千代田委員																					
英風女子高等専修学校	西口委員	東朋高等専修学校	岡崎委員																					
若者サポートステーションやまと	原田委員	アリバ有限会社	細田委員																					
ボデーショップ岩本	岩本委員	(株)日本トラフィックサービス	広末委員																					
大阪技能専門学校	三浦	(計1名)																						
大阪技能専門学校	有末	大阪技能専門学校	松長																					
議題等	<p>《会議の目的》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前回の会議で意見のあった「副教材」の記載内容について意見交換し再構築する。 ・今年度新たに協力校3校で実施したアンケートの集計結果を周知しその傾向などの検証結果を全体で協議する。 <p>《次第》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 総括挨拶 3. 事業進捗状況説明 4. 今年度の具体的活動の協議 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等専修学校アンケートの考察 2) 「副教材」記載項目の検討・決定 5. その他 意見交換 6. 諸連絡・今年度タイムスケジュールについて 7. 閉会 																							

議題等	<p>《議事内容》</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 <ul style="list-style-type: none"> ・幹事校総括の前川委員より開会宣言。 2. 総括挨拶 <ul style="list-style-type: none"> ・幹事校総括の前川委員より本会議が今年度最終会議であることが発表された。併せて本事業に賛同・協力していただいた各委員に関して総括から感謝の意が述べられた。最後に今年度の成果物等に関し説明があった。 3. 事業進捗状況説明 <ul style="list-style-type: none"> ・事務局より本日の議事進行を説明する。 併せて本日の「情報共有ネットワークシステム構築分科会」の議事及び協議内容を簡単に説明し周知する。 4. 今年度具体的活動の協議 <ol style="list-style-type: none"> 1) 高等専修学校アンケートの考察 <ul style="list-style-type: none"> ・前回の集計をもとにさらに詳しく原田委員の方から考察結果をまとめた資料が提出され、それについて発表があった。 この考察をもとに「副教材」の内容に生かしていくことが全体で決定した。 2) 「副教材」記載項目の検討・決定 <ul style="list-style-type: none"> ・前回までの会議意見を参考に「副教材」の記載内容及び項目を協議し、最終決定を目指す。 5. その他 意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・事業最終会議を迎え、本事業の成果や今後の方針に関し各委員から様々な意見があった。 また、今年度発生した「新型コロナウイルス」による教育現場への影響や、各企業の対応などに関し情報交換する。 6. 諸連絡・今年度タイムスケジュールについて <ul style="list-style-type: none"> ・今年度事業狩猟までのタイムスケジュールを全体に周知する。 併せて現状で確認済みの「成果報告会」の状況についても前川委員から説明される。 7. 閉会
-----	--

《各委員からの意見・報告内容》

4 今年度具体的活動の協議

1) 高等専修学校アンケートの考察

- ・前回の集計をもとにさらに詳しく原田委員の方から考察結果をまとめた資料が提出され、それについて発表があった。

この考察をもとに「副教材」の内容に生かしていくことが全体で決定した。

また、今回アンケート回答を昨年度の回答と比較することで今年度の特徴を確認する。

これにより特に今年度懸念される「新型コロナウイルス」による学生への影響も確認できると推測する。

【2年生向け進路アンケート考察】

- ・希望進路先として専門学校が大きく減少した。併せて進路が2年生時点で未決定という生徒がおおむね昨年度に比べて倍増している。これは明らかに今年度の「新型コロナウイルス」の流行による社会情勢が影響しているものと思われる。具体的に家計急変の生徒またはそれが感じられることでの各生徒の進路決定に対して進学して学費負担を懸念する傾向がうかがえる。

- ・「受けたい授業内容」に関する設問では、『「キャリア」という言葉や意味を知っていますか』という設問では知らないという回答が多く見受けられ、キャリア支援に関する授業と回答する生徒が増えた。

- ・「昨年のあいさつや職場マナー」に対し今年度は「実際の職場や会社を見学する機会が欲しい」という回答があった。

- ・「実際に身につけたい力はどのようなものか」という設問では、「社会のルールに対する忍耐力を身に着けたい」と考える生徒が多くいた。

- ・「企業が求める力」を問うたところ、「コミュニケーション力」という答えがやはり今年度も多く、生徒たちの人間関係構築に関する不安が大きいことがうかがえた。

【3年生向け進路アンケート考察】

- ・アンケート取得時に最終進路が決定していない生徒が昨年に比べ約2.5倍となった。

これに関しては2つの原因が考えられる。1つめは今年度企業全体に求人の見合わせが多く見受けられたこと。2つ目は、各生徒の家庭の経済状況の変化による進学への見合わせが考えられる。併せて言うならば、今年度自粛と休校措置による進路スケジュールの大幅な変更も、その一因として考えられる。

これら諸問題はすべて「新型コロナウイルス」の流行に影響されている。

- ・「進路決定までに行った活動」を見てみると、自発的に動いた生徒が意外にも多く「新型コロナ」流行による危機感を感じ進路決定の後押しをしたとの見方もできる。

議題等

議題等

- ・「進路を決定した時期」という設問では、直前に決定したという生徒が多く見受けられた。これに関しては生徒の動きが遅かったのもあろうが、やはり世間全体の求人活動の遅れが大きく影響していると考える。
- ・「進路決定に役立った活動」という設問では「説明会が少なかった」という回答が目立った。これに関しても今年度進路指導の特徴が大きく出ていると思われる。
- ・「受けたかった授業」という設問では、「適性検査」「コミュニケーションの取り方」などかなり具体的な回答が多く見受けられた。
- ・「これから進路決定を迎える後輩へのアドバイス」という設問で最も多かった回答は「とにかくチャンスがあれば先生や先輩に聞いて動くこと」「どんな機会でも大切にしておいてとにかく動いてみること」など彼らの切実な思いが伝わる回答が多かった。

今年度の特徴としてはやはり「新型コロナウイルス」の流行により生徒たちの進路決定に影響を及ぼしたことは否めないと考える。

表面的に、進路説明会の中止・見送りや延期、会社見学会の数の少なさや社会全体の外出自粛ムードによるデビカ絵などの表面的なもの。

内面的にも感染防止のための外出自粛ムードや、家計急変による進路の再検討を迫られた生徒も少なくはないと考える。

次年度以降、回復の見えない状況の中で早急に対策を講じる必要があると思われる。これは、学校だけではなく、私どもの「若者サポートステーション」でも同様である。
(原田委員)

2) 「副教材」記載項目の検討・決定

- ・実際の企業側から見て「最低限学校で指導すべき点」とはどのようなものになるのでしょうか。
(事務局)

- ・一概には言えないと思います。実際企業としては「真っ白な状態」で来て頂き弊社に即した教育を行って業務を行ってもらおうという感覚です。
(細田委員)

- ・具体的に最初に行う教育にはどのようなものがありますか。
(事務局)

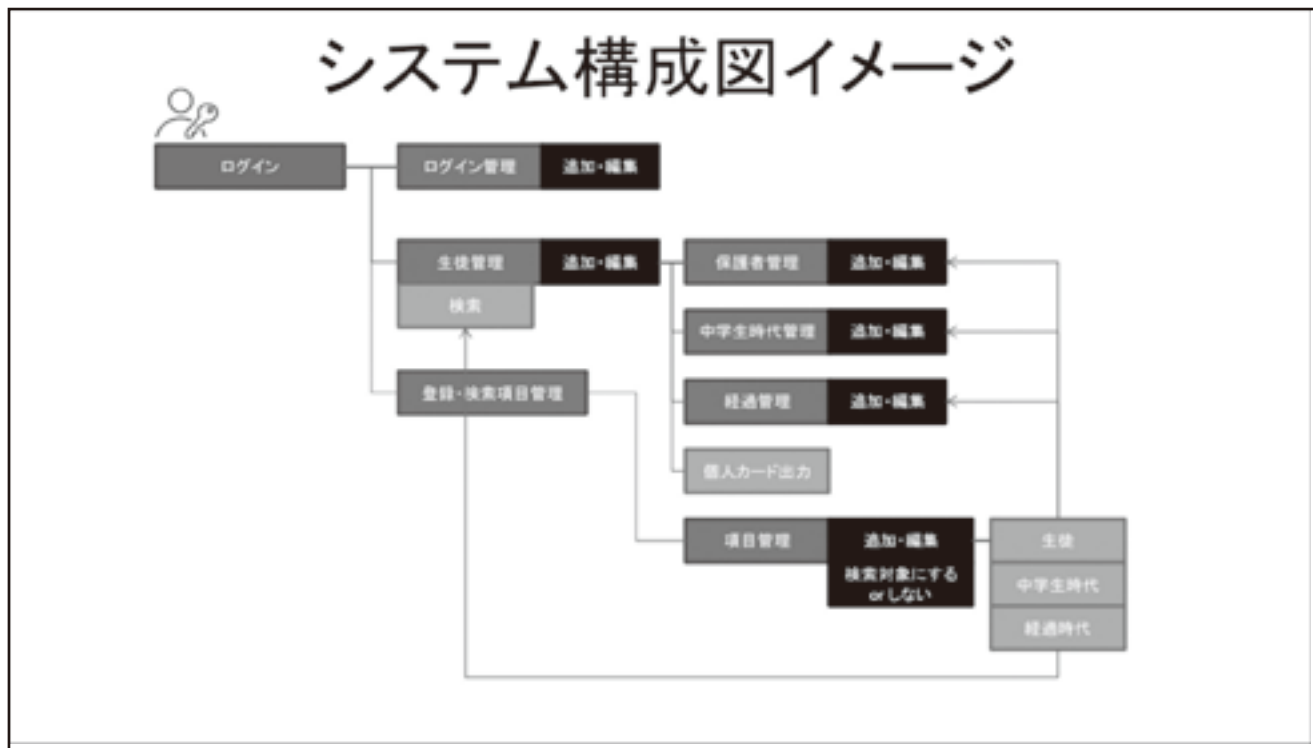
- ・特に特別なことを指導するわけではありません。弊社で重要視しているのは、業務をこなす上でまずは様々な提出書類がありますので、それら書類の書き方と「期限を守る」ということです。

実際にはこの2つがかなり難しいことが多いのですが。
(広末委員)

<p>議題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我々のキャリア授業の中でも最も苦勞するのが文章を書かせるという作業です。特に志望動機や自己アピールなど作成にはかなりの時間を要します。 (松長委員) ・本校は女子高なのですが、その点に関してはかなり良くできる生徒が多いです。全般的に見て女子の方が文章に関しては苦勞しないことが多いです。 (西口委員) <p>5. その他 意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度かなり影響を及ぼしたと思われる「新型コロナウイルスの流行」ですが、実際次年度以降どの様な状況が考えられるのでしょうか (事務局) ・全く予測が付きません。弊社の業務でいうと今年度大打撃を受けている状況です。一刻も早い社会全体の回復を願うばかりです。 (広末委員) ・弊社は、昨年に比べ求人希望数が大幅に増加しました。業界全体ではよいことのように思われますが、やはりこれも各家庭の経済状況の変化の表れのように思います。 (細田委員)
------------	---

3. 成果の活用方針

生徒個人データ管理システム



ローカル及びクラウド環境について

「クラウド管理のメリット」

1. バックアップが要らない

データ保存を目的としたクラウドの場合、ベンダーの役割やユーザーが保存したデータを適切に管理し、かつデータの安全を確保することにあります。そのため多くのベンダーはサービスを利用しているユーザーデータのバックアップを取っており、障害発生や災害に備えたあらゆる対策を講じています。

2. 運用の手間が省ける

クラウドはブラウザ経由で提供されるサービスです。とはいえサービスを提供するためのシステム環境は必要であり、ベンダーはこれをブラウザの向こう側で運用しています。クラウドの大半はベンダーが独自に運用しているものなので、ユーザーが特別な運用業務を行うことはありません。

3. 導入がスムーズ

企業が組織内のデータを保存・共有するためのファイルサーバーを構築する際は、ネットワークやサーバーといったインフラを整備し、ファイル共有のためのソフトウェアをインストールしたり、細かいパラメータ設定やメンテナンスを実行します。一方クラウドにはこうした導入の手間は一切ありません。

4. どの端末からでもアクセス

社内ネットワークに構築したファイル共有スペースの場合、同じネットワークに接続された端末からしかアクセスできません。これはビジネスにおける行動範囲を狭めている原因です。

5. BCPになる

BCP(Business Continuity Planning)とは災害などで事業継続が困難に陥った状況下でも、ネットワークやITシステムを通じて事業継続が可能な状態を維持するための対策です。2011年に起こった東日本大震災をきっかけに、日本全土でBCPへの意識が一気に高まりました。その有効手段として多く選ばれているのがクラウドです。クラウドを利用するとデータを手元に置かなくてもよいため、クラウドを利用すること自体がBCPになります。

クラウド管理の「デメリット」

1. オフライン環境下では使用できない

ブラウザ経由で利用するサービスということは、逆を言えばオフライン環境下では使用できないという注意点があります。インターネット環境に接続していればどの端末からでもどこかでも使用できますが、接続が切れてしまうと使用できなくなります。

そのため、ローカルファイルと連携してオフライン環境下でも使用できるサービスを選んだり、インターネット環境を継続して使用できるようにインフラを整備することが大切です。

2. インターネットネットワークセキュリティリスクがある

ブラウザを経由してサービスが提供されている以上、インターネットを介したセキュリティリスクは消えません。ユーザーがどんなにセキュリティ対策を講じていても、サービス自体がサイバー攻撃にあえばセキュリティが侵害される可能性はあります。

3. 第三者による不正利用の可能性がある

クラウドはアカウントIDとパスワードがあれば同じ環境にアクセスできるというメリットがあります。

しかしこれは第三者による不正利用の可能性があることも意味しています。アカウントIDとパスワードが外部に漏れればいとも簡単に不正利用が発生してしまうので、ユーザーは今まで以上にID・パスワード管理へ神経を向けなければいけません。